

河原田遺跡

市道駅前線道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2011.3

安芸市教育委員会

か わら だ い せき
河 原 田 遺 跡

市道駅前線道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2011.3

安芸市教育委員会

序

安芸市は、高知県東部の経済・文化の中核的な役割を果たす都市であるとともに、多くの文化的遺産を抱える歴史的な市でもあります。特に、安芸川中流の安芸城周辺には、現在でも「土居廓中」と呼ばれる武家屋敷が残され、古い町並みを今に伝える歴史的風土保存地区あります。

さて、平成18年度に発掘調査いたしました市道駅前線道路工事に伴う河原田遺跡の調査・整理が終わりました。ここにその成果を記録保存し、将来の安芸市民及び高知県民に伝え残したいと思います。

河原田遺跡は、安芸川河口に広がる沖積扇状地に位置する弥生時代の遺跡であり、安芸平野の周辺に散在する多くの遺跡のひとつであります。これまで、安芸平野をはさむ東西の段丘上では、清水寺岡遺跡や清近岡遺跡、勇前遺跡など弥生時代中期末の集落が確認されていましたが、今回平野部で初めて集落跡が確認されました。弥生時代の終わりには、平野部分への集落の進出が行われ、土地利用が始まっていたことを物語る貴重な成果であったと思われます。

最後になりましたが、調査・整理にあたり地元の方々をはじめ、高知県教育委員会文化財課、御教示をいただいた多くの方々の御協力と御厚意に対し深く御礼申し上げます。

平成23年3月

安芸市教育長 横山 幾夫

例　　言

1. 本書は、安芸市道駅前線道路工事に伴う河原田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 同遺跡は、安芸市東浜字カワラダに所在する。
3. 調査は安芸市教育委員会が主体となり、高知県教育委員会文化財課の協力を得て行われた。
4. 調査期間

試掘確認調査	平成18年8月2日
本発掘調査	平成18年8月9日～9月26日
	11月13日～12月8日

5. 調査面積

試掘確認調査	24m ²
発掘調査	261m ²

6. 調査体制

調査担当	門田由紀	〔安芸市立歴史民俗資料館学芸員〕
	坂本裕一	〔高知県教育委員会文化財課社会教育主事〕（調査時）
総務担当	門田由紀	〔安芸市立歴史民俗資料館学芸員〕

7. 本書の執筆は門田と（株）イビソクが分担し、遺物写真撮影及び編集は門田が行った。
 8. 発掘調査及び遺物整理・報告書作成にあたり、坂本裕一氏をはじめ多くの方々に御指導・御教示を賜った。
 9. 発掘整理作業員
- 発掘・整理作業は、以下の方々により行われた。記して感謝の意を表したい。
- ①発掘調査
赤畠資佳、植田和子、影山博之、梶原玉喜、上屋福美、小松昭子、小松世喜子、坂井千寿、高橋裕征、竹崎芳子、土居寛典、西内悠也、畠山緑、林幹郎、松本界、山内光一（敬称略）
 - ②整理作業
小松真喜子（敬称略）
10. 出土遺物は02-6AUと注記し、関連図面・写真等とともに安芸市立歴史民俗資料館で保管している。
 11. 報告書で用いる経度・緯度は世界測地系によるものである。

目 次

序	i
例言	iii
目次	iv

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経緯と調査方法

1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の方法	1
3. 試掘確認調査の概要	2

第Ⅱ章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	3

第Ⅲ章 調査成果

1. 基本層序	8
2. 検出遺構と出土遺物	8
3. まとめ	14

挿図目次

第1図 安芸市位置図	1
第2図 河原田遺跡位置図	1
第3図 試掘調査区	2
第4図 周辺の遺跡分布地図	5
第5図 調査区位置図	6
第6図 造構配置図	7
第7図 基本土層図	8
第8図 ST 1 遺物出土状況図	8
第9図 ST 1 平面図・セクション図	9
第10図 ST 1 出土遺物実測図	10
第11図 ST 2 平面図・セクション図・出土遺物実測図	11
第12図 ST 3 平面図・セクション図・出土遺物実測図	12
第13図 SB 1 平面図・エレベーション図・出土遺物実測図	13

表 目 次

第1表 出土土器観察表	15
第2表 出土石器観察表	16

写真図版目次

写真1 調査区検出状況・調査区完掘状況（南より）	
写真2 ST 1 バンクセクション（南より）・ST 1 完掘状況（西より）	
写真3 ST 1 遺物出土状況、ST 2 完掘状況（西より）、ST 3 セクション（南より）・ 完掘状況ST 3（西より）、調査風景（南より）	
写真4 出土遺物（1）	
写真5 出土遺物（2）	
写真6 出土遺物（3）	

第Ⅰ章 調査に至る経緯と調査方法

1. 調査に至る経緯

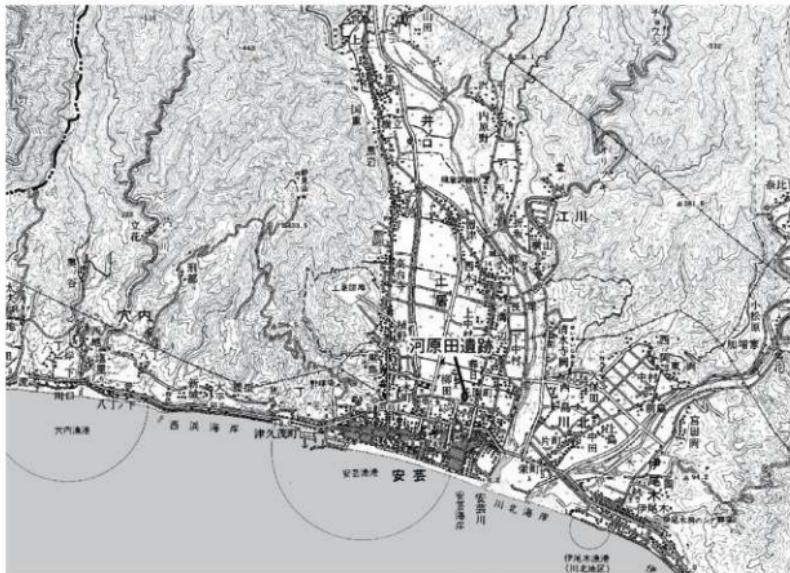
高知県東部の中心地である安芸平野の中央部に位置する河原田遺跡は、弥生時代から古代の遺物を確認できる散布地である。安芸市の市道駅前線道路工事に伴い、当遺跡の範囲及び内容を把握するため平成18年度試掘調査を実施し、堅穴住居跡、ピットなどの遺構や弥生土器・土師質土器片などの遺物を確認した。そこで事業主体である安芸市建設課と協議を行った結果、平成18年8月9日から9月26日、11月13日から12月8日にかけて安芸市教育委員会が主体となり、高知県教育委員会文化財課の協力を得て本発掘調査を実施することとなった。

2. 調査の方法

調査方法は調査区を重機（パワーショベル）により表土を除去し、それより下は機械と人力を併用して行った。また、必要に応じて、写真撮影及び図面作成を行い記録に残した。



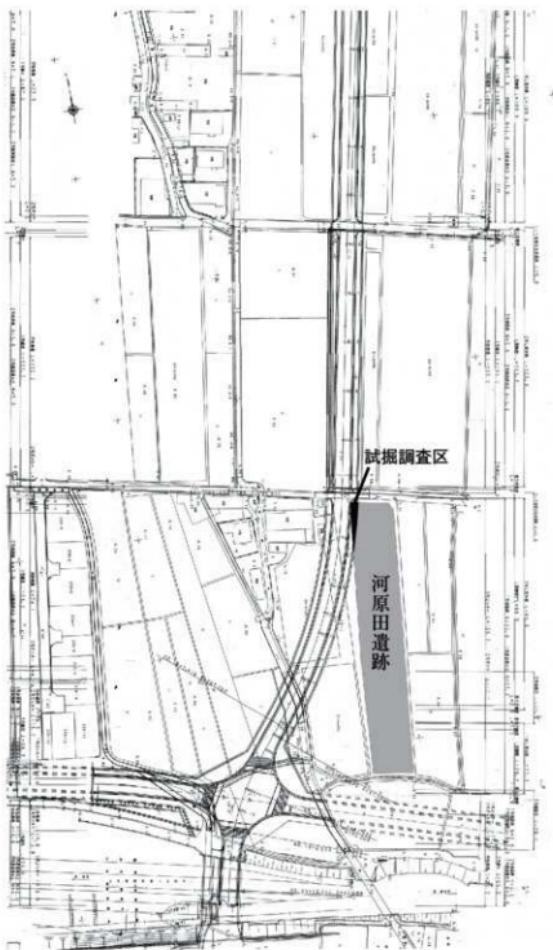
第1図 安芸市位置図



第2図 河原田遺跡位置図

3. 試掘確認調査の概要

市道敷設予定地に3m×4mのトレンチを2箇所設定し、調査を行ったところ表土下の土層から多数の土器片が出土した。また、竪穴住居跡やピット、溝跡が検出された。



第3図 試掘調査区

第Ⅱ章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

高知県の東部海岸は、高知平野の東端より室戸岬を経て徳島県との県境まで、山地が海岸際まで迫り、河川の流域に小平野が点在するという状況である。安芸平野はそのいった小平野の中では一番大きく、安芸川と伊尾木川の河口に広がる東部の要地である。

河原田遺跡は、安芸川河口に広がる沖積扇状地に立地している。

2. 歴史的環境

安芸市における旧石器時代や縄文時代は、縄文土器片や香川県産のサスカイト製の翼状洞片等、遺物の散布地は発見されているが、未だ確実な遺跡は確認されていない。

弥生時代は、先達の努力や発掘調査の成果により、詳細な当時の状況を知ることができる。内原野弁天池の南西に立地する勇前遺跡では、平成13年度の発掘調査により、直径5m前後から8mの堅穴住居跡が4棟発見されている。讃岐地方からの搬入土器を含む弥生土器や磨製石包丁・打製石鎌・ガラス小玉などが発見され、弥生時代後期前葉の遺跡であることが判明した。

勇前遺跡から下流に1kmほど下った同じく左岸の河岸段丘上にある鶴ヶ丘遺跡は、昭和18年の発掘調査で堅穴住居跡が発見され、甕棺や弥生土器の壺などが出土している。

鶴ヶ丘遺跡から安芸川をさらに1km下った左岸段丘上にある清水寺岡遺跡は、昭和60年に発掘調査されている。堅穴住居跡6棟が発見され、弥生土器や紡錘車・石包丁・石鎌などが出土する弥生時代中期後半から後期前半にかけての集落である。

妙見山山麓の清近岡遺跡は、昭和53年に発掘調査が行われている。弥生時代中期末の土坑墓4基や弥生時代後期後半の堅穴住居跡などが発見され、ヒビノキI・II式の弥生土器や打製石包丁などの石器類が出土した。

鶴ヶ丘遺跡からは弥生時代の甕棺が、また鶴ヶ丘遺跡の北東・江川の東岸に立地する日林坊遺跡からは、弥生後期の壺棺などが発見されており、弥生時代の墓制が伺える。

伊尾木の切畑遺跡では、明治7年に銅鐸2個が出土し、他にも弥生土器片や石斧・石鎌・石包丁などが出土している。

川北の山田山遺跡からは、昭和35年に弥生中期の有柄石劍（安芸市指定文化財）が出土し、周囲から弥生土器片も発見されている。

また、安芸川左岸の江川の東岸丘陵上にある神谷遺跡からは、大正10年頃に弥生時代中期の広形銅鉢（安芸市指定文化財）が出土している。この銅鉢は県内東限であり、当時の集落祭祀の様子を伺うことができる。

古墳時代については遺物散布地はあるものの、確認されている古墳はただ1基である。現在消滅しているが、一ノ宮古墳は、妙見山山麓の清近岡遺跡の範囲内にあり、銀環や馬具類・須恵器等を出土している。川北の西ノ島遺跡では、昭和34～40年にかけて表土下1.2m程の粘土層から勾玉・土師器・須恵器・杭木などが出土している。

また、5世紀末から6世紀初頭の須恵器に伴出した手捏土器が1個出土している。その近くの桜木遺跡からは、古墳時代初期の大規模な水利施設と思われる木組み護岸構造が確認されている。

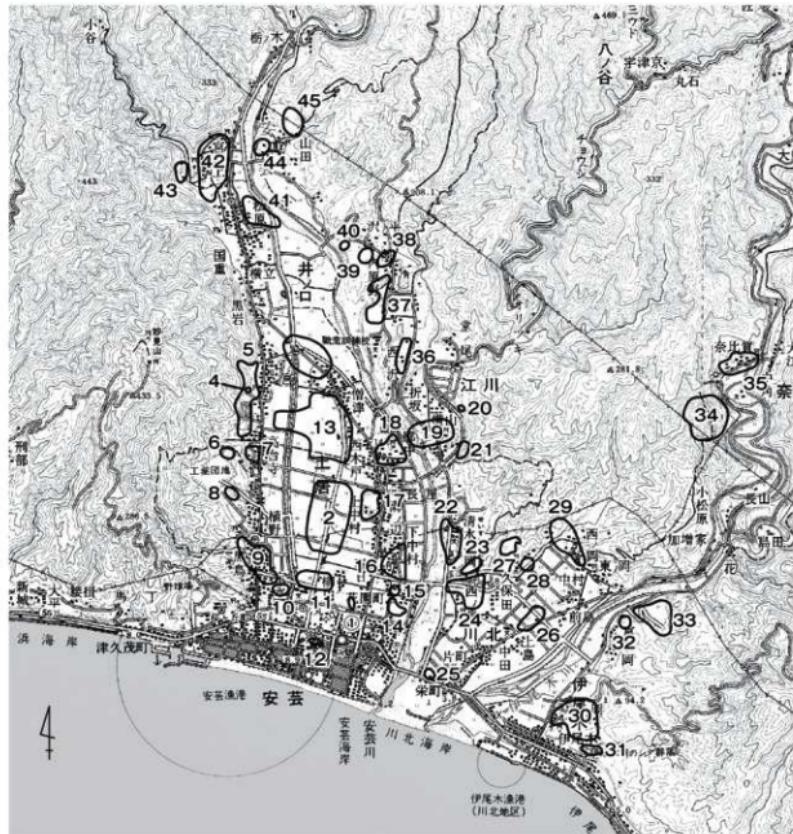
古代は、近年徐々に調査事例が増え、明らかになりつつある。平成14年度に発掘調査が行われた瓜尻遺跡では、奈良・平安時代の民家跡と思われる掘立柱建物群が発見された。このことから、8世紀頃には井ノ口周辺には集落が存在していたことが確認できた。

また、瓜尻遺跡の南に位置するジョウマン遺跡では、5世紀前半の溝跡が検出されており、平野部の利用がこの時期には行われていたことがわかる。

中世から戦国時代に至ると、安芸氏の居城であった安芸城をはじめ、山城や中世土器の散布地などの遺跡が見られる。また、平野西側の妙見山の南東山麓・妙見山遺跡からは、人骨が入った猿投窯産の灰釉双耳壺や刀子が出土し、中世の有力者の墓地と思われる。さらに東南に山麓を下ると植野城跡があり、詰と堀切1条が残るが、城主など詳細なことは不明である。安芸川と伊尾木川に挟まれた山麓には、安芸太郎・安芸次郎の2つの城跡が200m離れて並んでいる。堀切や詰・腰曲輪・段状に整地された遺構が不完全ながら存在する。さらに、黒鳥遺跡（弥生土器や近世陶磁器など、各時代の遺物散布地）や上エヒイ遺跡、ヤナギダ遺跡、春日遺跡、清水寺岡遺跡などの中世陶磁器類の散布地が点在している。

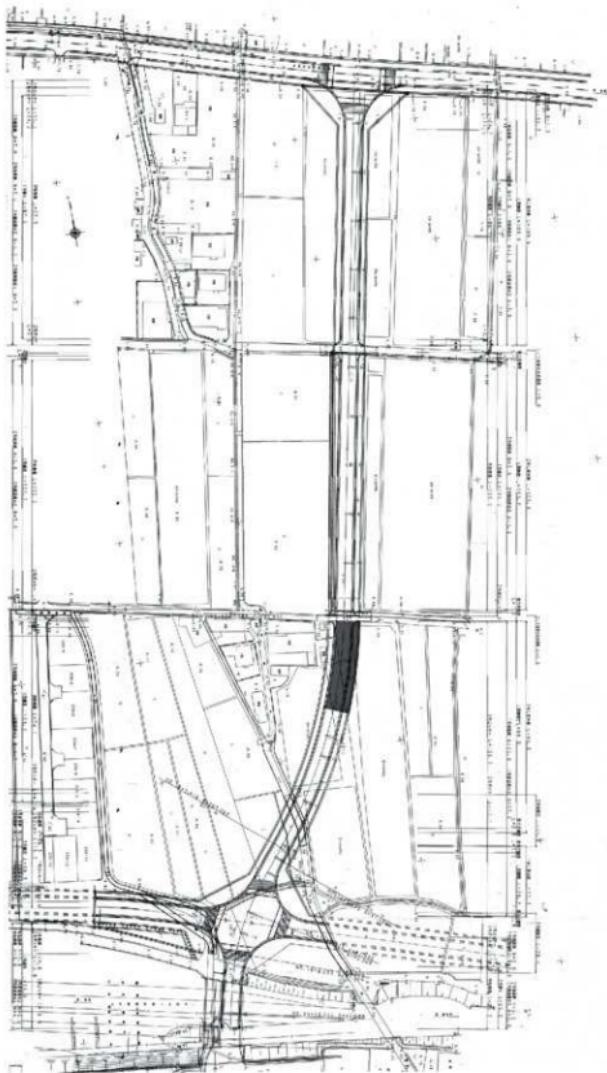
参考文献

- 「高知」日本の古代遺跡39
- 「勇前遺跡」高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第77集
- 「桜木遺跡」高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第94集
- 「コゴロク遺跡群」奈半利町埋文発掘報告書第一集
- 「清水寺岡遺跡」安芸市教育委員会
- 「安芸市遺跡分布地図報」安芸市教育委員会
- 「瓜尻遺跡」安芸市教育委員会

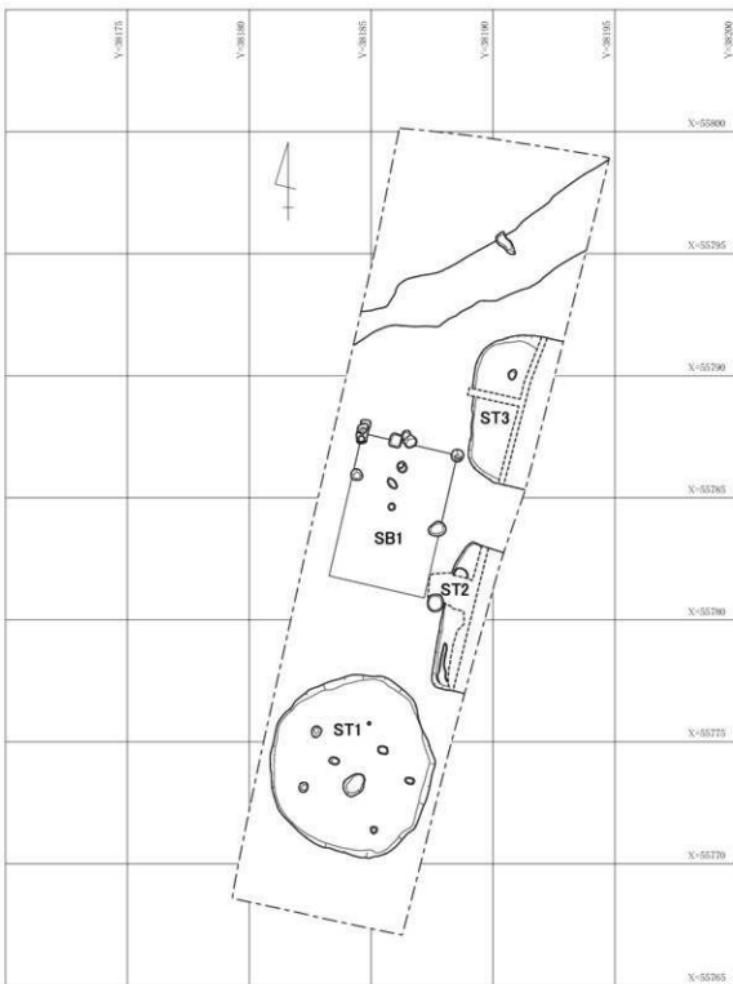


① 河原田遺跡	弥生	16 春日遺跡	中世	31 有井城跡	中世
2 ヨウラン遺跡	古墳・中世	17 シガ屋敷遺跡	弥生・古代・近世	32 ダケウ内遺跡	中世
3 マテダ遺跡	古墳・中世	18 安芸城跡	中世・近世	33 切畠遺跡	弥生
4 一ノ宮古墳	古墳	19 鶴岡遺跡	弥生	34 忍比賀城跡	中世
5 清近岡遺跡	弥生	20 日林坊遺跡	弥生	35 忍比賀道路	中世
6 紗見山遺跡	中世	21 神谷遺跡	弥生	36 中野道路	鯖文・中世
7 高台寺遺跡	弥生	22 清水寺岡遺跡	弥生・中世	37 勇前遺跡	弥生・古代・中世
8 植野城跡	中世	23 安芸次郎城跡	中世	38 内原野塙跡群	近世
9 黒鳥遺跡	弥生～近世	24 西ノ島遺跡	古墳	39 斎屋次郎遺跡	中世
10 上エヒノ遺跡	中世	25 安芸振町遺跡	弥生	40 野神遺跡	古墳
11 ヤナギ谷遺跡	中世	26 上島遺跡	弥生	41 佐原遺跡	中世
12 江ノ川畔遺跡	弥生	27 安芸太郎城跡	中世	42 宮ノ上遺跡	弥生
13 瓜尻遺跡	弥生～古代	28 櫻木遺跡	古墳	43 小谷道路	弥生
14 金政遺跡	弥生	29 山田山遺跡	弥生	44 西妙見谷遺跡	弥生
15 玉造遺跡	古墳	30 闇道跡	弥生～近世	45 山田道路	弥生

第4図 周辺の遺跡分布地図 (S=1/50,000)



第5図 調査区位置図



第6図 遺構配置図

第Ⅲ章 調査成果

1. 基本層序

河原田遺跡は、安芸市東浜の標高7m前後の低平な平野部に所在し、遺跡周辺には弥生時代を主体とする金政遺跡・江ノ川遺跡が所在する。今回調査した地点の東側からは、過去に大量の土器が出土しており、遺跡は調査区を含む周辺の自然堤防上に展開していたと考えられる。

河原田遺跡の基本土層は、I層は現代の耕作土並びに盛土、II層は弥生時代から古墳時代の土器片を含んだ遺物包含層、III層は河川堆積の砂礫層である。遺構検出面はIII層上面である。調査区北側で砂礫に潜り込む砂層が確認できた。砂層から北側で遺構が全く確認できなかったことから、本来は調査区から北側が高かったと考えられ、上部は既に削平を受けていると思われる。

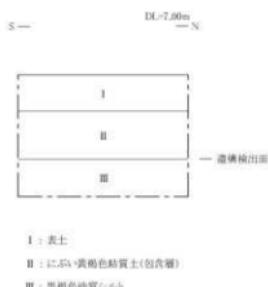
2. 検出遺構と出土遺物

今回の調査では、弥生時代後期末から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡3棟、掘立柱建物1棟、土坑、ピットを検出した。

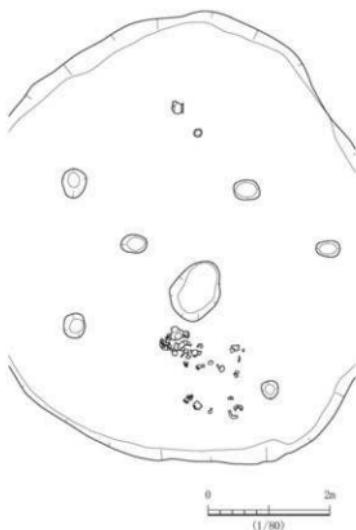
(1) 竪穴住居跡

ST1

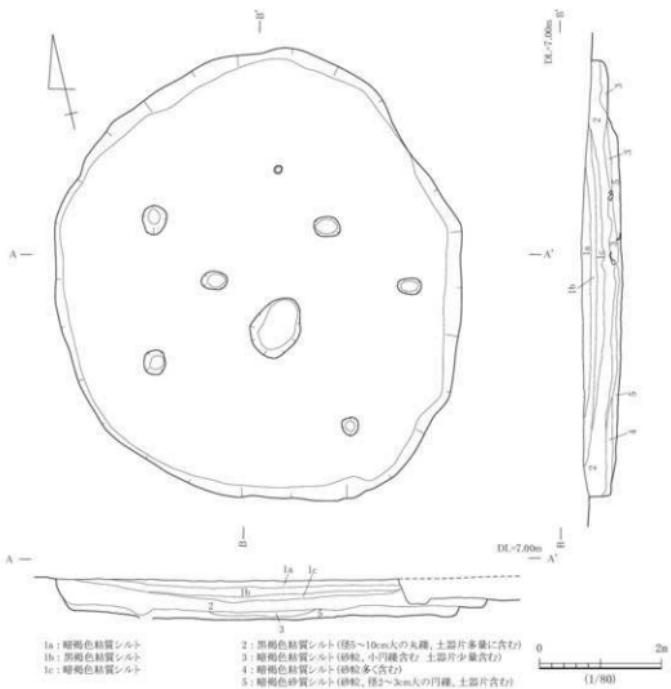
調査区の南側中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は直径7.1m、検出面から床面までの深さは0.30~0.65mを測る。床面からは、性格不明の土坑、ピットを検出したが、住居に伴う明確な柱穴としては認められない。埋土上層では中央付近に、約1.0×0.6mの楕円形状に炭化物の広がりを検出した。埋土からは、多量の土器片が出土した。出土した土器は、ヒビノキII式土器を主体とし、二重口縁壺やミニチュア土器などが出土している。また搬入土器として庄内式の甕が出土している。その多くは住居廃絶後に堆積したものと推定される。



第7図 基本土層図



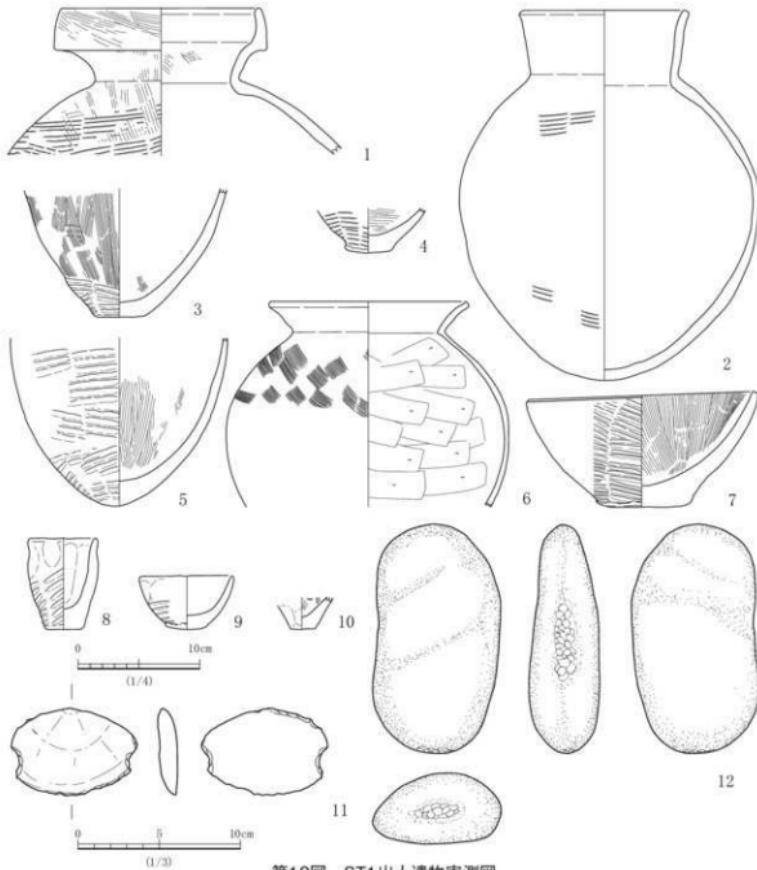
第8図 ST1遺物出土状況図



第9図 ST1平面図・セクション図

図示した出土遺物は二重口縁壺、壺、甕、鉢、ミニチュア土器、石庖丁、敲石である。1の二重口縁壺は口縁部が内傾し、端部は丸くおさまる。体部は球形と考えられる。摩滅のため判然としないが、内面はハケ調整、口縁部内面はナデ調整がみられ、体部外面にはタタキの後、縦方向のハケ調整が加えられている。ヒビノキⅡ式土器と考えられる。2の壺は口縁部の立ち上がりが直線的で端部がやや外反している。体部中央は球形で下方はややすぼまる。摩滅のため判然としないが、体部外面はタタキ、底部内面にハケ調整がわずかにみられる。色調は浅黄橙色である。底部が丸底である形態からヒビノキⅢ式土器と考えられる。3の甕は体部が下方にすぼまり、径の小さい平底である。体部は細かい縦方向のハケ調整で底部外面のみにタタキがみられる。色調はにぶい黄橙色である。器面調整の形態からヒビノキⅡ式土器と考えられる。4の甕は底部の径が小さく平底である。底部外面はタタキ、同内面にはハケ調整がみられる。色調は浅黄橙色である。ヒビノキⅡ式土器と考えられる。5の甕は底部が尖底に近い形状の丸底である。体部は底面までタタキがみられ、同内面は縦方向のハケ後ナデ調整を加える。色調は灰白色である。ヒビノキⅢ式土器と考えられる。6の甕は球形に近い胴部を有する。口縁部はくの字形に外反し、端部は肥厚する。口縁部外面は横方向のナデ調整、体部外面は細かいハケ調整、同内面に

はヘラケズリがみられる。色調は黄褐色である。成形・内面調整の手法から庄内式の壺である。7の鉢は明確な平底で内湾ぎみの体部である。壺の底部に近似している。外面一面にタタキ、内面には縦方向のハケ調整がみられる。色調は黄橙色である。ヒビノキII式土器と考えられる。8のミニチュア土器は手捏ねにより成形を行い、体部外面はタタキ、内面はナデ調整がみられる。色調は黄橙色である。9のミニチュア土器は手捏ねにより成形を行い、体部外面はタタキの後ナデ、口縁部外面から内面そして底面にはナデ調整がみられる。色調はにぶい橙色である。10のミニチュア土器は手捏ねにより成形を行い、底部内面はハケがみられる。同外面は指頭圧痕が残る。色調は灰白色である。11の石庖丁は砂岩の横長剥片を素材とした打製の石庖丁である。背面は自然面。腹面は剥離面で、刃部は両刃で両面から調整を施す。両端にも調整を加え、くり込みを作る。12の敲石は砂岩製の敲石で、下面・裏面・両側面の4面に敲打痕が残る。

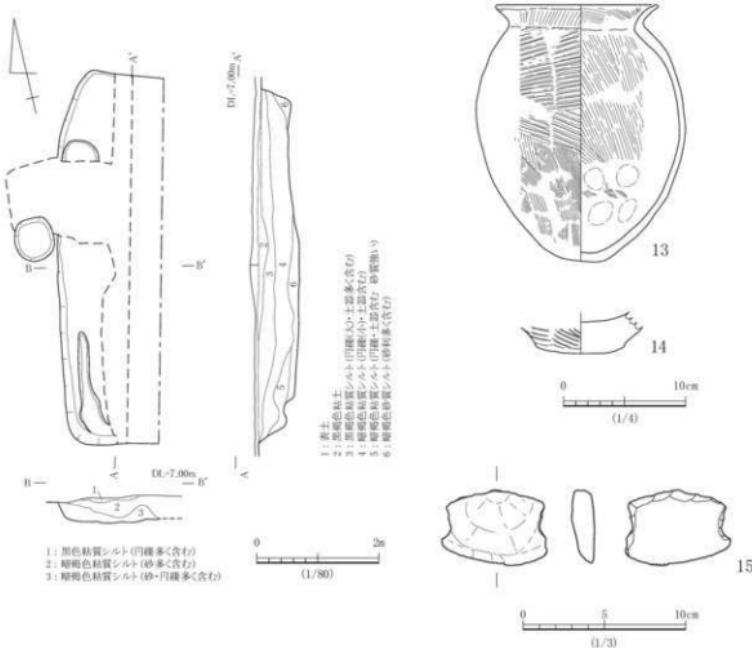


第10図 ST1出土遺物実測図

ST2

調査区の中央東端に位置する。調査区東壁に接し、大半は調査区外であるため、正確な規模は不明である。だが直線的な西辺を検出していることから、平面形は一辺約6mの方形規格を示しているものと考える。西辺の壁際に幅0.2m、深さ0.05mの周壁溝の一部を検出した。検出面から床面までの深さは0.40~0.65mを測る。住居に伴う柱穴は検出していない。

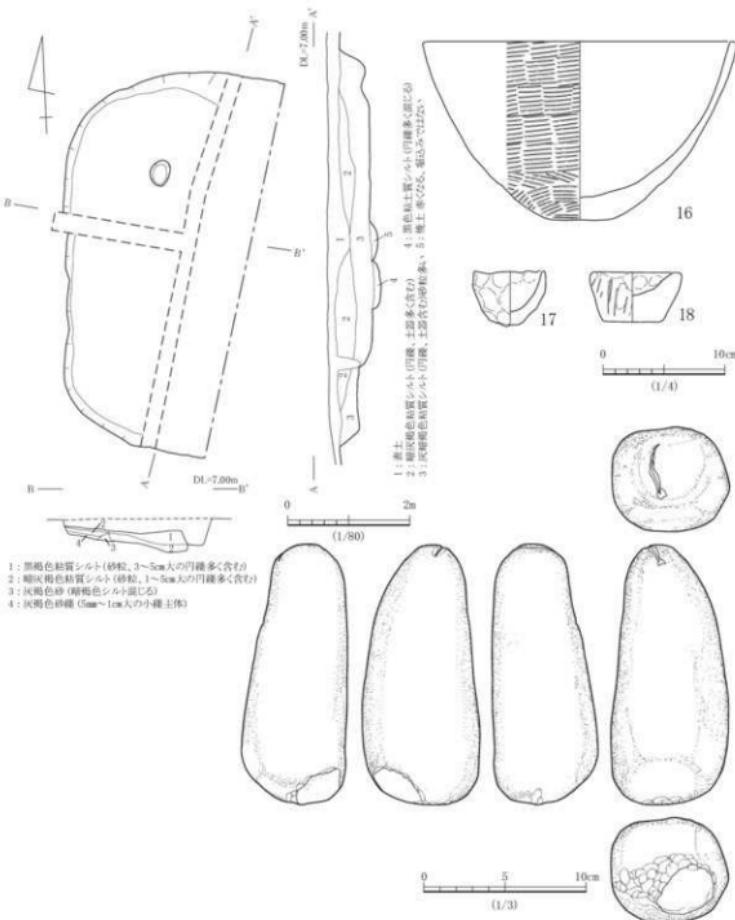
図示した出土遺物は壺、石庖丁である。13の壺は縦にやや長い体部を有し、頸部はくの字に外反している。内面と口縁部外面にハケ、体部外面上半はタタキ、下半は細かい縦方向のハケ調整がみられる。底部内面に成形時の指頭圧痕が残る。色調は橙色である。ヒビノキⅡ式土器と考えられる。14の壺は底部が丸みを持ち、外面は細かいタタキ、同内面にはナデ調整がみられる。色調は浅黄橙色である。ヒビノキⅢ式土器と考えられる。15の石庖丁は砂岩の横長剥片を素材とした石庖丁である。背面は自然面。腹面は剥離面、刃部は片刃で剥離面から調整剥離を施す。両端に調整を加えたくり込み、背部に調整剥離痕がみられる。



第11図 ST2平面図・セクション図・出土遺物実測図

ST3

調査区の北東端に位置する。調査区東壁に接し、東側が調査区外であるため正確な規模は不明である。平面形がほぼ方形に近い規格を呈し、その遺存状況から一辺が6m程度の規模を持つと推定され、南に位置するS T2と方位を揃える。検出面から床面までの深さは0.30~0.61mを測る。床面からは性格不明のピットを1基検出した。遺物は、ヒビノキⅢ式土器の鉢、ミニチュア土器や弥生土器高杯、土師器壺・甕の細片などが出土している。



第12図 ST3平面図・セクション図・出土遺物実測図

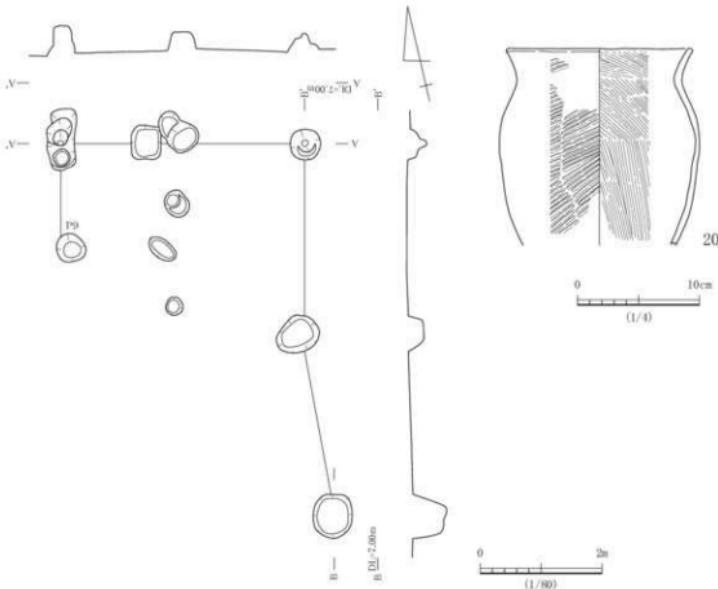
図示した出土遺物は鉢、ミニチュア土器、敲石である。16の鉢は丸底である。外面一面にタタキがみられるが、内面は磨耗してはっきりとしない。色調は黄橙色である。底部器面調整からヒビノキⅢ式土器と考えられる。17のミニチュア土器は手捏ねにより成形を行い、内外面はユビオサエがみられる。底部内面に指頭圧痕がよく残る。色調はにぶい橙色である。18のミニチュア土器は手捏ねにより成形を行い、指頭圧痕がよく残る。内面はナデ調整がみられる。色調はにぶい橙色である。19の敲石は砂岩製の敲石で、上面・主裏面に敲打痕が、主裏面・両側面に細かな擦痕が観察できる。下面の一部欠損するもその部分にも敲打痕が残る。全体に赤色顔料が付着する。

(2) 挖立柱建物

SB 1

調査区中央に位置する。梁桁2間、桁行2間の規模を持つ南北棟建物である。柱穴は、平面形が隅丸方形または円形で、一辺の長さが0.46~0.71m。検出面からの深さは、0.30~0.55mを測る。遺物は、ヒビノキⅢ式土器の甕や土師器の細片が出土している。

図示した出土遺物はP 9から出土した甕である。20の甕は体部が縱に長く、口縁部にかけて緩やかに変化する。摩滅のため判然としないが、外面一面にはタタキ、内面は縱方向のハケ調整、口縁端部にはナデ調整がみられる。外面に煤が付着する。色調は浅黄橙色である。器面調整からヒビノキⅢ式土器と考えられる。



第13図 SB1平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

3.まとめ

土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線安芸駅のすぐ北側にある河原田遺跡は、以前より弥生時代の土器が多数発見されていた。今回の市道建設工事に伴う発掘調査では、弥生後期の竪穴住居跡3棟、柱穴11個が確認され、弥生土器をはじめ石包丁や敲石など33,910点の遺物が発見された。

遺構検出面は河川堆積の砂礫層上で、竪穴住居跡は直径6～7mという大形のもので、埋土からは3万点を超える遺物が出土した。土器片にはタキ目が目立ち、底部片は丸底のものが多いことからビノキⅡ～Ⅲ式に該当すると思われる。また、石包丁や敲石、磨石、砥石など当時の生活がうかがえる石器も発見された。また、畿内で作られた庄内式土器（甕）が出土していることから、当時近畿地方との交流があったこともうかがえる。

今回の調査の結果、調査区を含む周辺は旧安芸川のつくった自然堤防上に位置し、一帯に集落があつたことが確認された。これまで、安芸平野を囲む東西の段丘上では、清水寺岡遺跡や清近岡遺跡、勇前遺跡など弥生時代中期末の集落は確認されていたが、弥生時代の終わりには平野部分への集落の進出が行われ、土地利用が始まっていたことを物語る貴重な成果であったと思われる。近年、瓜尻遺跡やジョウマン遺跡など安芸平野部中心での発掘調査が序々に行われるようになり、平野部の様相が明らかになりつつある。今後の発掘調査に期待が持たれる。

第1表 出土土器観察表

国 番号	遺物 番号	出土 位置	種別	器種	法量 (cm)			色調	形態の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	残存率
					口径	底径	器高					
1	120	ST1	弥生土器	壺	164	-	12.0	黄橙 10YR8-6	二段に屈曲する口縁が立ち上る。口縁部が内傾し、口縁端部は丸くおさまる。体部は球形と思われる。	摩減のため判然としないが、内面はナナメハケ。口縁部内面はナギ、体部外面はタキのち、ナナメハケ。	やや密。 3mmの砂粒。 焼成良好。	1/7
2	50	ST1	弥生土器	壺	132	-	30.3	浅黄褐 7.5YR8-6	口縁部の立ち上がりが実際的で端部ではやや外反する。体部中央は球形で下方はややすすまる。底部は丸底。	摩減のため判然としないが、外部外面はタキ。底部内面にわずかにハケがみられる。	やや密。 2mmの砂粒。 焼成良好。	9/10
3	67	ST1	弥生土器	壺	-	3.8	(10.5)	にぶい黄橙 10YR7-4	体部は下方にすぼまり、平底である。	体部はハケ。底部外面はタキ。	やや密。 3mmの砂粒。 焼成良好。	1/8
4	96	ST1	弥生土器	壺	-	3.8	(3.7)	浅黄褐 10YR8-4	底部は径が小さく平底である。	底部外面はタキ。同内面はハゲ。	やや粗。 3mmの砂粒。 焼成良好。	底部の 破片
5	71	ST1	弥生土器	壺	-	-	(13.7)	灰白 10YR8-2	底部が尖底の丸底。	体部外面はタキ。同内面はハゲのちナギ。	やや密。 3mmの砂粒。 焼成良好。	1/3
6	190	ST1 SKI	弥生土器	壺	16.0	-	(16.8)	黄褐 2.5Y5/4	脚部は球形。口縁部はくの字形に外反して肥厚。腹部は外方にしまみあげる。	体部外面は細かいハケ。内面はハラケズリ。口縁部はナギ。	やや粗。 角吻を含む 焼成良好。	1/3
7	74	ST1	弥生土器	鉢	(8.3)	7.8	9.5	黄褐 10YR8-6	平底で内済みの体部。壺の底部に近似。	外面はタキ。内面はハゲ。	やや密。 3mmの砂粒。 焼成良好。	口縁部 1/2
8	65	ST1	弥生土器	ミニチュア 土器	(4.1)	2.1	5.6	浅黄褐 7.5YR8-4	手捏ね成形する。	体部外面はタキ。内面はナギ。	やや粗。 2-3mmの 砂粒。 焼成良好。	2/3
9	122	ST1	弥生土器	ミニチュア 土器	(7.5)	3.3	4.3	にぶい橙 7.5YR7-4	手捏ね成形する。	体部外面はタキの後ナギ。(脚部外面から内面と底面はナギ)。	やや粗。 2-3mmの 砂粒。 焼成良好。	2/3
10	121	ST1	弥生土器	ミニチュア 土器	-	2.1	2.6	灰白 10YR8-2	手捏ね成形する。	底部内面はハゲ。同内面は指頭圧痕が残る。	やや粗。 2-3mmの 砂粒。 焼成良好。	1/4
13	171	ST2	弥生土器	壺	13.0	2.8	21.1	褐 7.5YR7-6	体部は壺に長い。頭部脛曲部がくの字形に呈する。	口縁部外面から体部内面にかけてハケ。体部外面上半はタキ、同下半はナギ。底部内面はナギ。同内面に指頭圧痕あり。	やや密。 焼成良好。	3/4
14	183	ST2	弥生土器	壺	-	7.2	(3.4)	浅黄褐 10YR8-3	底部は丸みを持つ。	底部外面はタキ。同内面はナギ。	やや粗。 3mmの砂粒。 焼成良好。	底部の 破片
16	165	ST3	弥生土器	鉢	25.0	-	14.6	黄褐 10YR8-6	底部は丸底。	外面はタキ。内面は磨耗してはっきりしない。	やや粗。 3mmの砂粒。 焼成良好。	1/5
17	185	ST3	弥生土器	ミニチュア 土器	6.8	4.8	4.1	にぶい橙 7.5YR7-4	手捏ね成形する。	内外面はユビナサエ。底部内面に指頭圧痕が残る。底面はナギ。	やや密。 焼成良好。	完存
18	257	ST3	弥生土器	ミニチュア 土器	(5.7)	-	4.5	にぶい橙 10YR7-2	手捏ね成形する。	内面はナギ。成形時の指頭圧痕が残る。	やや密。 焼成良好。	ほぼ 完存
20	251	SBI P9	弥生土器	壺	(14.6)	-	(16.0)	浅黄褐 10YR8-4	体部は壺に長い。口縁部にかけて紙やかに変化する。	摩減のため判然としないが、外部外面はタキ。内面はハゲ。口縁部はナギ。外面張付着。	やや粗。 2-3mmの 砂粒。 焼成良好。	口縁部 1/5

第2表 出土石器観察表

国 番号	遺物 番号	出土 位置	器種	法量 (cm · g)				石材	形態の特徴
				最大長	最大幅	最大厚	重量		
11	152	ST1	石庖丁	5.3	7.8	1.2	386	砂岩	横長剥片を素材とし、打面は剥離面、背面は自然面。刃部は両刃で両面から調整。両端に調整を加え、くり込みを作る。
12	146	ST1	敲石	14.1	7.9	4.3	6700	砂岩	下面・裏面・両側面に敲打痕。
15	180	ST2	石庖丁	4.6	6.5	1.4	330	砂岩	横長剥片を素材とし、打面は剥離面、背面は自然面。刃部は片面で剥離面から調整剥離を施す。両端に調整を加えたくり込み、背部に調整剥離痕がみられる。
19	253	ST3	敲石	16.0	7.2	6.3	10640	砂岩	上下面・裏面に敲打痕。主裏面・両側面に細かな擦痕。下面の一部欠損するも敲打痕あり。全体に赤色顔料が付着。

写真図版



調査区検出状況（南より）



調査区完掘状況（南より）

写真 2



ST 1 バンクセクション（南より）



ST 1 完掘状況（西より）



ST 1 遺物出土状況



ST 1 遺物出土状況（甕）



ST 1 遺物出土状況（甕）



ST 1 遺物出土状況



ST 2 完掘状況（西より）



ST 3 セクション（南より）



ST 3 完掘状況（西より）



調査風景（南より）

写真 4



出土遺物(1)



8



9



10



13



14



16



17

写真 6



18



20



11 (表)



11 (裏)



12



15



19

報告書抄録

ふりがな 書名	かわらだいせき 河原田遺跡						
副書名	安芸市道駅前線道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	安芸市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第6集						
編著者名	門田 由紀						
編集機関	安芸市立歴史民俗資料館						
所在地	〒784-0042 高知県安芸市土居953番地イ TEL (0887) 34-3706						
発行年月日	2011年3月						
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 °°°'	東経 °°°'	調査期間	調査面積	調査原因
かわらだいせき 河原田遺跡	こうちけん 高知県 あやし 安芸市 とうひはまあと 東浜字 カワラダ	39203	33° 30' 20.35"	133° 54' 29.95"	平成18年8月9日 ～同年9月26日 同年11月13日 ～12月8日	261m ²	安芸市道 駅前線道 路工事
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
河原田遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡		出土遺物 33.910点 弥生土器、手捏土器、 搬入土器片、石器、 石包丁、砥石、敲石		

安芸市埋蔵文化財発掘調査報告書第6集

河原田遺跡

2011年3月

編集 安芸市立歴史民俗資料館

発行 安芸市教育委員会

安芸市矢ノ丸1-4-40

電話 (0887) 35-1020

印刷 川北印刷株式会社